

外国人旅行者向け情報発信の強化

Ver150818
知床財団

1. 提案内容

キャッチコピー・目的	<p>今後 10 年間で、外国人旅行者に対して、知床半島の各拠点をつなぐモデルコースを提案し、知床ルールの情報発信力を強化する。</p> <p>この情報発信戦略のキーワードとして「知床トラバース」を設定する。</p>
背景・理由	<p>知床が世界自然遺産に登録されてから 10 年が経過した。この間の遺産地域の観光利用形態の変化は、斜里側で五湖と観光船への集中、羅臼側は観光船利用の増加などがあるが、両地域に共通する顕著な変化としては、外国人旅行者の増加が上げられる。さらに 10 年～20 年後を考える時、現在大きな利用者層である日本人熟年層は減少に向かい、外国人の割合はさらに増加することが予想される。訪日外国人旅行者の増加は地域経済にとって大きな可能性であるが、同時にいくつかの懸念も生じる。例えば、ヒグマへのエサやりや接近が危険な行為だと認識していない外国人旅行者を見受けることが増えてきている。環境保全上の各種ルールをいかに伝え、遵守に導くかが、重要な課題となっている。</p> <p>このような状況を鑑み、持続可能な観光利用と環境保全を両立するために、外国人旅行者を意識した知床ルールの効果的な情報発信の仕組みを作る。具体的には知床の価値を適切に伝えるキャッチフレーズを作り、同時にモデルコースを作成し、知床の楽しみ方の提案とセットでルールを周知する戦略を提案する。モデルコース作成の手法として、既にある観光拠点や素材を「つなぐ」ことに重点を置く。ネットワーク化による魅力アップと、各拠点の情報発信機能を強化することにより、ルール周知を徹底する仕組みを作り上げる。</p>
具体的な提案内容	<p>第 1 期：情報発信の仕組みを整える。</p> <p>① 情報発信戦略会議を立ち上げ、発信メディアを作成・運用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャッチフレーズの決定。 ・発信メディアの決定 (ガイドブック or 電子書籍 or WEB サイト)。 ・体験プログラム・トレイルをつなぎ、モデルコースを作成する。 ・各プログラム、トレイル、コースの難易度(グレード)を明示する。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 参考事例「大雪山グレード」http://www.daisetsuzan.or.jp/enjoy/grade/ ・利用者ニーズとグレードをマッチングする仕組みを作る。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 参考事例「シレココ」http://www.env.go.jp/park/shiretoko/guide/sirecoco/ <p>② フロントカントリー（自然センター周辺）での情報提供</p> <p>2014 年秋にホロベツ地区で「しれとこ 100 平方メートル運動地公開に関する社会実験」が実施された。そこで取り組まれた事前レクチャーと情報提</p>

コメントの追加 [S1]: 各町でそれぞれのブランド戦略がすでに進行中であるため、統一キャッチフレーズの設定は長期的な取り組みと位置づけることとした。

コメントの追加 [元2]: 情報プラットフォームとして「知床情報玉手箱」開設 (2016/08/01~)。情報更新は主に知床財団、2018 年から観光船情報は事業者が更新。

コメントの追加 [元3]: 北海道事業で、2015 年にフレベの滝、2016 年に五湖の歩き方 HP を作成する。その後予算終了により、HP は破棄。

コメントの追加 [元4]: 「日刊ヒグマ情報」レクチャーを自然センターで実施 (2016/04/20~2017/10/20)

	<p>供、新規遊歩道の設置と運用については、100平方メートル運動地が対象となるため、斜里町および知床財団が継続して進める。検討状況等は今後の各拠点のネットワーク化や情報発信強化のモデルケースとして共有する。</p> <p>③ バックカントリー（奥山エリア）での情報提供。</p> <p>2014年には連山縦走路で山岳事故が頻発した。各登山道の難易度を明確化し、利用者のニーズとのマッチングができる情報提供を行う。奥山での自然体験は自己責任を前提とした上で、この地に適した情報提供を定義し、整備は必要最低限に留める方針とする。</p> <p>具体的には、登山口である木下小屋、カムイワッカ園地、羅臼ビジターセンターなどの拠点が担うべき情報発信の強化、連山縦走路の最低限のメンテナンスを行う。</p> <p>-----</p> <p>第2期：（第1期の中で課題整理が進んだ場合に再提案する将来的な構想）</p> <p>④ 象徴となるロングトレイル「グランドトラバース」を整備する。</p> <p>⑤ プロジェクトを持続的に運用する仕組み「ワークアンドスティ」を地域社会に構築する。</p>
--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

コメントの追加 [元5]: 「知床のヒグマ」サイト開設 (2018/10/25～)し、ヒグマ最新情報は「知床情報玉手箱」でも発信

コメントの追加 [元6]: 新規遊歩道として「しれとこ森づくりの道・開拓小屋コース」を開設 (2017/9/9～)

コメントの追加 [S7]: 「知床情報玉手箱」内における「週刊 登山道情報」の運用 (2016/08/01～)。

コメントの追加 [元8]: 2か国語のトレイル地図「知床連山エリア MAP」を作成・販売 (2017/6/25～)

コメントの追加 [元9]: 登山口におけるヒグマ情報の発信・収集を林野庁が実施。同情報は財団ヒグマ対策チームとリンク (2016/7/1～)

2. 戦略の基本原則との対応

①	遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上
	外国人旅行者へのルール周知を効果的に行い、自然環境の保全を促進する。楽しみ方の提案とルールをセットすることにより、知床が世界自然遺産地域であり環境保全上のルールを重視している姿勢を伝え、適切な行動へ誘導することを目的としている。
②	世界の観光客への知床らしい良質な自然体験の提供
	訪日外国人旅行者を対象とし、知床のイメージと具体的な自然体験のマッチングを意識したモデルコースを設定し、発信する。満足度の向上と世界自然遺産地域としてのブランド価値の向上を目的としている。
③	持続可能な地域社会と経済の構築
	観光産業において今後大きなマーケットとなる訪日外国人旅行者の来訪促進を行う。地域における該当マーケットへの対応を戦略的に進めることにより、持続可能な発展を目的としている。

3. 検討部会の想定メンバー：

関係行政機関	釧路自然環境事務所、北海道森林管理局、北海道、斜里町、羅臼町
地域関係団体	知床斜里町観光協会、知床羅臼町観光協会、知床ガイド協議会、 知床エ コソ ーリズム推進協議会、斜里山岳会、羅臼山岳会、自然公園財団

コメントの追加 [S10]: エコツーリズム推進協は平成28年6月を以て解散。

コメントの追加 [S11]: 第2回部会において環境省から自然公園財団の参画要請あり。自然公園財団が参画 (2016/8/1～)。